

32 いわ お じょうあと 岩尾城跡



指 定 県 史 跡 昭和46年 5 月27日
所在地 鳴 瀬
所有者 個人39人



岩尾城は、南岩尾の西端、千曲川と湯川が合流する河岸段丘上の丘陵城郭で、文明10年(1478)に、この地を分知された大井行俊が長土呂から移り、岩村田館守護のために築城したものといわれ、大井氏の一族が五代にわたって使用した城郭である。

本城は東方を大手としていたもののように、主郭は最高所にあって梯形をなし、東方の二之郭との堺に土塁を残している。二之郭はほぼ矩形で、東側に梯形の三之郭があり、三之郭の東側は急斜面になって、下に三か月堀の跡がある、その東を南北に走る土塁跡は、北端で直角に西方に屈折した台曲輪だいくるわを形作っている。

また、本郭の西は細長く低い1郭となり、その西方に堀切りを隔てて控え曲輪がある。

岩尾城は天正11年(1583)2月、徳川家康に与した依田信蕃のぶしげに攻められ、信蕃とその弟・信幸をたおしながら力尽きて開城し、城将大井行吉は関東に去り、廃城になった。